

展 示 品 目 録

展示資料No.	書名	刊行年	内容
1	<small>のうぎようぜんしよ</small> 農業全書	元禄10(1697)	宮崎安貞著。出版されたものとしては日本最古の農書。中国の『農政全書』の影響が大きい、自らの体験や見聞をもとに日本の農業全般について体系的に記述されており、農業技術の基本図書として長く読み継がれた。巻頭の農耕図の他、各有用植物についても、図入りで解説している。
2	<small>わかんさんさいずえ</small> 和漢三才図会	文政7(1824)	寺島良安著。正徳3(1713)年頃刊行。105巻81冊から成る、江戸時代の挿絵入り百科事典。各項目に図を示し、漢名・和名を掲げ、本文は漢文で解説されている。
3	<small>にほんさんかいめいぶつずえ</small> 日本山海名物図会	宝暦4(1754)	平瀬徹斎編、長谷川光信画。挿画を中心に全国の産物を解説した案内書。物そのものだけでなく、生産工程や収穫風景、市の様子などが人物入りの詳細な図で描かれている。長谷川光信は江戸中期の浮世絵師。
4	<small>えほんふくじゆそう</small> 絵本福寿草	宝暦5(1755)	大岡春川画。草花を正月から12月まで並べて図にし、その和漢名、花色、詩歌を記した絵手本。第1ページに福寿草(元日草ともいう)をおき、書名にしたという。一部の図版は手彩色。最終巻の巻末には、「彩色繪具式」として緑青、朱、弁柄(ベンガラ)など16種の絵具を挙げ、草木のどの色を再現する際に適するか解説を加えている。大岡春川は狩野派の絵師。
5	<small>ばんしよこう</small> 蕃諸考 (写本)	天保11(1840)写	原本は享保20(1735)年と明和6(1769)年に書かれた『蕃諸考』及び『蕃諸考補』。青木敦書(昆陽)著。度重なる飢饉に備えて、救荒用の作物としてのサツマイモの栽培を、諸書からの引用により奨励した書。漢文。本書はこの2巻を1冊にまとめた写本。
6	<small>みんかんびこうろく</small> 民間備荒録	明和8(1771)	建部由正〔清庵〕著。著者は一関藩の藩医。すぐれた医者であっただけでなく、江戸の蘭学者杉田玄白などとも親交があり、蘭学の発展に寄与した。本書は著者が宝暦の飢饉を目の当たりにして著した書で、飢饉への備え、山野草の見分け方・食べ方、解毒法などを分かりやすく解説した。一関藩では本書の写本を村々に配布し、実用に充てたという。日本における救荒書としては最初の本格的なもので、その後の救荒書の手本となった。
7	<small>ひとつぶまんばいほ</small> 一粒万倍穂に穂	天明6(1786)	川合(忠蔵)元著。著者は備中国小田郡大江村の人。「一粒万倍」とある通り、いかに効率よく稲の収穫量を増やすかを説いた書。円山応挙による農耕図が掲載されている。
8	<small>せいけいずせつ</small> 成形図説	文化1(1804)	薩摩藩主島津重豪が農事奨励のため編纂させた百科事典。薩摩藩医の曾繁責任編集。国学者の白尾国柱等が協力。農事、五穀、蔬菜、葉草、樹草、蟲豸、魚介、禽獣などにわたる全100巻を刊行する計画だったが、再度の火災にあい断念。農事部、五穀部、蔬菜部からなる30巻のみが刊本。他は稿本、あるいは写本によってのみ伝えられる。
9	<small>のうかどくようほだちてびまぐさ</small> 農家徳用穂立手引草	文政11(1828)	酔吟居主人著。五穀、米穀の栽培について説いた書。「穂には雌穂と雄穂があり、良い雌穂を選んで種子を残す事が肝要」と説き、稲や麦についてその区別を図説している。当時の育種の在り方が伺える資料。
10	<small>ほんぞうずふ</small> 本草図譜	大正5-11(1916-1922)	初版発行は文政11-天保15年(1828-1844)。岩崎常正(灌園)著。多色刷り木版。原本は当初木版・手彩色で版行されたが経費が維持できず、後には手彩色写本という形で予約販売された。日本最初の植物図鑑というべきもの。本書は大正期の復刻版。
11	<small>せいかつろく</small> 製葛録	文政13(1830)	大蔵永常著。救荒植物としての葛の栽培およびその加工法について記述した書。葛粉や葛布の製造により農家の現金収入を増やし、農民の暮らしを向上させる事を目的とした。加工の各工程を詳細に図解している。
12	<small>びこうそうもくず</small> 備荒草木圖	天保4(1833)	建部由正〔清庵〕著。『民間備荒録』と同様、飢饉への対策として、食用にできる植物などについて、文字の読めない庶民にも分かるように植物図を付した本書を著した。清庵の没後、弟子や関係者によって刊行された。
13	<small>こうえきこくさんこう</small> 広益国産考	〔跋〕天保15(1844)	大蔵永常著・松川半山画。初め『国産考』2巻として天保13(1842)年に刊行。後に、これを含めた『広益国産考』8巻として刊行された。著者大蔵永常は、特用作物に重点を置いた研究をすすめた農学者。先進地域の農業を後進地域に紹介することを主な目的に、多数の農書を執筆した。『広益国産考』はその集大成ともいえる書。実体験に基づいた詳細な手順や挿画を多く載せ、分かり易く記述している。

展 示 品 目 録

展示資料No.	書名	刊行年	内容
14	（民家日用） 広益秘事大全	[序]嘉永4(1851)	三松館主人著。全3巻。日常生活における教養や役立つ情報について、特に有益と思われる事項を諸書から引用し記した書。「書物の潮につかりたるを直す法」「萬(よろず)しみ物おとし」「蛙のなくを止る法」等、内容は多岐に渡る。「草木種植類」と題して栽培植物を挙げ、栽培法や貯蔵法、それぞれの調理法などを記している。また、月ごとの献立案のほか、『料理珍味集』(宝暦14(1764)年刊)から抜粋した料理も掲載されている。
15	むぎめし 麦飯さとし草	安政6(1859)	鳩居堂蓮心(熊谷直恭)著。白米のみを食べ続ける事による害を説き、麦飯を勧めた書。麦の健康上の利点を説き、その調理法なども説明する。著者は京都鳩居堂の4代目で医学にも通じ、京都における種痘の実施に関わった事でも知られる。本書は著者77歳の時の書。
16	せいようそさいさいばいほう 西洋蔬菜栽培法	明治6(1873)	開拓使蔵版。キャベツやタマネギ、トマトなど、現在では一般的となっている野菜の欧米品種、及びその栽培法を紹介している。巻末に欧米の農機具の図解あり。
17	そうもくろくぶこうしゅほう 草木六部耕種法	明治9(1876)	佐藤信淵著。文政12(1829)年筆といわれている。作物を根・茎・皮・葉・花・実の六部に分け、その栽培育成の方法について論じている。読者の対象は大名や知識人を想定しており、農民が実地に利用出来るような具体的な指導書ではない。佐藤信淵は農政学者。本草および蘭学を宇田川玄随に学ぶ。その功績は生存時にはあまり注目されていない。明治政府が各地の農書を調査する際になって取り上げられたため、本書の刊行も明治になってからである。
18	かほくさいばいほう 菓木栽培法	明治9(1876)	藤井徹著 田中芳男関 加藤竹斎画。著者が実体験を元に果樹栽培の方法について記した書。カラー図版有り。加藤竹斎(1818-?)は本名加藤督信。加藤恒信の門人で、植物画家。明治4(1871)年創設の博物館に所属し植物画を作成していた。明治14(1881)年からは東京大学小石川植物園の所属となり植物画を描いた。イギリスのキュー植物園やベルリンのダーレム植物園に彼の作品が残っている。
19	ゆうようしよくぶつせつ 有用植物図説	明治24(1891)	田中芳男・小野職愨撰、曲直瀬愛・小森頼信校、服部雪斎画。農林水産、栽培、自生、庭園樹まで25類1,015図を載せる。緻密な彩色図(木版画)に、漢字・カタカナ表記及び学名までが併記されている。
20	ほんちようしよくかがみ 本朝食鑑	元禄10(1697)	人見必大著。12巻から成る本草書で、日本の食物本草書を代表する書である。李時珍の「本草綱目」に範をとりつつ、検討を加え、魚貝類など日常食品を重点的に選び出している。
21	とうふひやくちん(せい) 豆腐百珍(正)	天明2(1782)	酔狂道人著。100種類の豆腐料理の調理方法を解説した料理本で、はじめての材料別料理書である。尋常品、通品、佳品、奇品、妙品、絶品の6段階に分類・評価している。
22	とうふひやくちん(ぞく) 豆腐百珍(続)	天明3(1783)	酔狂道人編。『豆腐百珍』のヒットにより刊行された続編。『豆腐百珍』と体裁が同じで、「尋常品」～「絶品」までの100品と、付録として38品の豆料理及び「豆腐雑話」が付せられている。
23	いもひやくちん 甘藷百珍	寛政1(1789)	珍古楼主人編。『豆腐百珍』にあやかった「百珍もの」の一つで、甘藷(さつまいも)の料理について記されている。尋常品、奇品、妙品、絶品の四等品に分類されており、料理品目は全部で123品にも及ぶ。
24	とくようしよくかがみ 徳用食鑑	天保4(1833)	大蔵永常著。都市生活者向けの救荒書として書かれているが、「肥前船頭飯」や「畿内の五文餅」など、地方の名物料理的なものを多く紹介している。
25	かまど にぎわ 竈の賑い	天保4(1833)ごろ	大蔵永常著。刊記は無いが、『徳用食鑑』とほぼ同時に刊行された救荒書。「きらず(おから)飯」「里芋飯」等々、米の節約のための各種の「かて飯」や粥の炊き方を紹介している。
26	にほんせいひんずせつ 日本製品図説	明治10(1877)	高鋭一編、狩野雅信画。「ウィーン万国博覧会」(オーストリア)、「独立百周年記念国際博覧会」(アメリカフィラデルフィア)等に日本の物産品を出品するため行った全国調査の結果を基に、実際に現物や現場を見直し考察を加えた本。完成後は、翻訳して世界中に日本の物産品を紹介する目的があった。日本国内務省刊行。